

Hello! FUJISEI

No. 15

政府が公表した「平成22年版 高齢社会白書」によると、65歳以上の1人暮らし高齢者の増加は男女ともに顕著であり、昭和55（1980）年には男性約19万人、女性約69万人で、高齢者人口に占める割合は男性4.3%、女性11.2%でしたが、平成17（2005）年には男性約105万人、女性約281万人、高齢者人口に占める割合は男性9.7%、女性19.0%となり、女性における比率は極めて高くなっています。今後も1人暮らし高齢者は増加を続け、特に男性で1人暮らし高齢者の割合が大きく伸びることが見込まれています。

1人暮らし高齢者では他の世帯と比べ、健康や生活費などの経済的な心配など「心配ごとや悩みごとがある」人が多く、その内容は「自分の健康」「生活費などの経済的なこと」「病気のときに面倒を見てくれる人がいない」や「1人暮らしや孤独になること」などとなっています。

また、65歳以上の高齢者の配偶関係について配偶者の有無をみると、配偶者と死別した割合は女性が男性の4倍にのびます。平成17（2005）年における有配偶率は、男性81.8%に対し、女性は47.1%で、女性高齢者の約2人に1人が配偶者なしとなっています。

1人で暮らすことに不安！

自分や配偶者の健康や病気が心配

ところで、内閣府が5年に1回実施している「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成21年調査）では、「自分の日常生活全般に不安を感じる」という人は71.9%で、過去の調査と比較すると増加傾向にあります。その内容については、「自分や配偶者の健康や病気」がトップに挙げられ、次いで「介護状態になる

こと」が続き、以下、生活や収入、1人暮らしになることなどが挙げられています。

三世帯同居が当たり前だった頃と比べると、老後の暮らしは大きく変わっています。当然ながら、そのための準備も変わっています。1人暮らしになった場合にも安心して暮らすことができる準備が必要ですね。

高齢者が不安に感じている点（複数回答：%）

内閣府「高齢者の日常生活に関する意識調査」（平成21年調査）

